

顔文字入れて／3人以上で／中傷控える

中1生が提唱チャット心得

長崎県の小六女児事件は、インターネットでのチャットのトラブルが原因とされた。全生徒がノートパソコンを所有する私立須磨学園中学校（神戸市須磨区）では十九日の文化祭で、一年生のグループがチャットをする上での注意点などを発表した。生徒らは「顔が見えない分、言葉遣いに気を付けている」と体験を踏まえて語った。

同校は学習や家庭との連絡にパソコンを活用。宮浦修造教諭は「チャットで宿題を聞いてくる生徒もいる」と話す。

チャットについて発表したのは二グループ。「年齢や性別、距離に関係なく気軽に会話が楽しめる」「顔が見えないから平気で中傷する人がいる」「など」とよい点、悪い点をまとめた後、「なるべく三人以上で使う」「表

長崎小6事件受け 各家庭でルール作りを

現はできるだけ豊かに。顔文字なども入れて」などと提案した。

発表者の佐山未佳さん（二）は「ついやりすぎないよう、一日三十分から一時間以内に行っている」と心構えを語る。

ある男子生徒（三）は小学生時代、教室での口げんかがチャットでエスカレートし、翌日、殴り合いになった経験がある。

だが、長崎の事件について「チャットで人を殺すとは思わなかった」と驚きを隠さない。今も毎日利用するが「人の嫌がることは言わないようにしている」という。

宮浦教諭は「雰囲気がおかしくなれば、すぐやめてくれる」と生徒自身の判断力を信頼する。一方で「パソコンは居間に置いて親が監督するなど、各家庭でルールを決めてほしい」と訴えている。